

尋常性乾癬における carcinoembryonic antigen (CEA) および CEA-related cell adhesion molecule 6 (CEACAM6) の発現の検討

(The expression of CEA and CEACAM6 in psoriasis vulgaris)

[目的] carcinoembryonic antigen (CEA)については現在皮膚科領域において汗管や汗管由来腫瘍、パジェット病での発現は周知の事実である。また毛包、脂腺、爪など他の皮膚付属器、種々の炎症性および腫瘍性皮膚疾患における CEA の発現が知られるようになってきたがその発現抗原の詳細や発現の意義についての研究はほとんどなされていない。CEA の機能については細胞接着作用、好中球の活性化、T 細胞活性化の亢進や抑制、粘膜における感染防御、胎児期組織形成の調整などの報告がある。尋常性乾癬において CEA の発現動態を解析することで T 細胞や好中球の挙動にどのような役割を演じているのかを解析する足がかりとすることを目的とした。

[方法] 尋常性乾癬患者 37 例 (28 例のホルマリン標本と 9 例の凍結標本) の皮膚組織標本を用い、細胞分化や増殖マーカーである involucrin 、Ki-67 、CK16 の発現と CEA の発現について免疫ブロット法と免疫組織染色法を用いて評価した。

[結果] 免疫ブロット法、免疫組織染色法により、CEA と CEACAM6 は乾癬病変部で過剰発現していることを確認した。病変辺縁の正常皮膚にみえる部位には発現を認めず、病変部の表皮上層に存在する表皮角化細胞の細胞膜および細胞質のみ発現を認めた。involucrin 、Ki-67、CK16 も乾癬病変部に過剰発現しており involucrin より上層である表皮角化細胞での発現を認めた。なお、免疫組織染色法において凍結組織標本の CEA 同定について、EDTA に浸し電子レンジで処理することによりホルマリン固定標本と同様の染色結果を得た。

[結論] 尋常性乾癬において CEA の発現の機序や意義は不明であるが、免疫組織学的検討から分化における発現の順位は involucrin の後に CEA、CEACAM6 が発現していることから、増殖活性が亢進した表皮角化細胞における分化と関連している可能性が考えられた。